

🏆 (公財) 千葉県教育振興財団 設立50周年記念トークイベント

縄文愛

を熱く語る

—縄文とつながる今とこれから—



横芝光町高谷川低地遺跡出土丸木舟



市川市雷下遺跡貝層断面

日時

令和7年 1月19日 日

受付 / 11:00～13:30

トークイベント / 13:30～15:30

会場

千葉市
生涯学習センター
2階ホール&ホワイエ

主催 / (公財) 千葉県教育振興財団

後援 / 千葉県教育委員会

登壇者プロフィール

西野雅人



1962年、柏市生まれ。明治大学で考古学を学び、千葉県教育振興財団や市原市文化財センターで遺跡の発掘等に従事。平成25年度末に県を退職して、現在は千葉市埋蔵文化財調査センター所長。専門は縄文時代の研究。学生時代に加曽利貝塚を見学して貝塚に興味をもち、大学1年生のときに市原市西広貝塚の発掘に参加して魅力に取りつかれた。それ以来40年間、千葉県内の貝塚を中心に縄文人の生活や生業、食生活の解明に取り組んできた。最近、NHK「新日本風土記」「ヒューマニエンス」などマスメディアへの出演機会も増え、縄文の魅力、縄文研究の成果から現代に伝えたいことなどを発信し続けている。

戸村正己



1954年、山武郡芝山町生まれ。小学4年の時、魚獲りに興じた近くの川(高谷川)で偶然に縄文土器の破片を採集。幾千年もの大昔の土器が、自分の掌の上に在ることの不思議さに魂を揺さぶられ、以来“縄文の虜”になる。

高校2年の時、加曽利貝塚博物館にて、土器製作技術研究の草分けである新井司郎氏との運命的な出会いがあり、土器製作の手ほどきを受ける。新井氏逝去後その意思を引き継ぎ、以後、独自の土器製作活動を展開。以来、製作復元土器や土偶などによる展覧会を自宅の創作空間“縄文の丘”や国内各地で催し、海外においてはフランス・ブルガリアで開催。

土器製作に関する講演を大森貝塚保存会や秋田県埋蔵文化財センターなど各地で実施。また、土器製作技術の探求による新見も論文等で発表。現在は千葉市埋蔵文化財調査センターで「縄文土器製作技術研究員」として研究を進めている。

「土器を作り始めてから50年余り、仮想世界がますます広がる現代社会において、手応えある感触が如何に大切であるのかを、土器作りを通して実感している」

望月昭秀



1972年、静岡県生まれ。ニルソンデザイン事務所代表。書籍の装丁や雑誌のデザインをしながら、都会の縄文人のためのフリーマガジン“縄文ZINE”を2015年から発行。“縄文ZINE”は専門的な内容を興味深く追及したり、縄文といろいろなカルチャーと掛け合わせる実験を試みたりと、幅広い読者層に支持される内容。

縄文に惹かれたのは縄文のデザインに興味があり、長野県茅野市にある尖石遺跡・尖石縄文考古館に行ってみたのがきっかけ。以来、SNSで各地の縄文を発信。著書に「縄文人に相談だ」・「蓑虫放浪」・「土偶を読むを読む」などがある。

上守秀明（コーディネーター）



1957年生まれ。人生の多くの時間を松戸市で過ごす。小学生の時に貝の花貝塚展を偶然見て、そして中学生の時に幸田貝塚と子と清水貝塚の発掘現場を見学して、衝撃を受ける。明治大学と我孫子市で考古学を学び、千葉県に奉職。千葉県教育振興財団で、千葉市有吉北貝塚や袖ヶ浦市山野貝塚などの発掘調査や整理作業に従事。

定年退職後は千葉県教育振興財団で普及事業に従事する。多くの人々が考古学や縄文に興味を持っていただくことを願って「eco生活事始め」・「らくがく縄文館」など、縄文を切り口にした展示を企画している。現在展示中の「地中からのメッセージ」part1でも縄文を担当している。

まだまだ、縄文に対する探究心は尽きない。



ホワイエにて展示中



戸村正己氏作品

2月9日⑩まで開催中！

公益財団法人千葉県教育振興財団 設立50周年記念展 part 1

地中からのメッセージ —旧石器・縄文・弥生—

会場／千葉県立中央博物館